

## 防衛大学校本科第40期及び理工学研究科第33期学生 卒業式における学校長式辞（平成8年3月17日）

防衛大学校本科第40期及び理工学研究科第33期の学生諸君は、本日をもって所定の全課程を終了し、4年及び2年にわたる小原台生活に別れを告げることになりました。この間、防衛大学校における学生生活の中で、諸君が自らの青春を燃焼し、幾多の収穫と思い出を持って巣立って行かれるその事に対して、私は、本校の教職員、指導教官一同と共に、心からお祝いを申し上げます。

本日のこの栄えある式典に、國務御多端の折りにもかかわらず、御臨席を賜りました橋本内閣総理大臣<sup>注(1)</sup>、白井防衛庁長官<sup>注(2)</sup>をはじめ国会議員各位、また江崎筑波大学学長<sup>注(3)</sup>をはじめ内外多数の来賓各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

また、卒業に至るまでの間、防衛庁自衛隊の関係者各位、官民の諸機関並びに在日米軍、各国大使館等から寄せられた御指導・御協力に対しましても、併せて厚くお礼申し上げます次第であります。

更にまた、遠路をも省みず本式典に御参列賜りました御両親・御家族の皆様方に対しましては、今日までの御協力に対し深く感謝申し上げるとともに、立派に成長された御子女の卒業を心からお祝い申し上げます。

さて、388名の本科卒業生諸君、顧みれば平成4年の春4月、諸君が希望と緊張感に胸を震わせながら、桜花爛漫のここ小原台の門をくぐられた日のことを覚えていることでしょうか。また入校後もしばらくは、慣れない学生舎生活や規律ある生活に戸惑い、将来幹部自衛官として、その生涯を防衛の職務に捧げようという決意に若干の不安を感じたこと



第6代学校長 松本 三郎

---

注(1) 橋本龍太郎

注(2) 白井日出男

注(3) 江崎玲於奈

でしょう。しかし、それからの4年間、厳しい団体生活の中で勉学や訓練に励み、幾多の苦しい障害を乗り越え、試練に耐え、諸君は大きく逞しく成長いたしました。かくして、幹部自衛官となるべき決意と資質は揺るぎないものとなり、今や胸を張って堂々と卒業していく諸君を、私は自信を持って送り出すことができます。

タイ王国4名、シンガポール共和国1名の留学生諸君に対しましても、心から祝福を贈るものであります。異なる文化の下で、日本の友人と寝食を共にしつつ学んだこの貴重な経験は、必ずや将来諸君が誇り得る豊かな財産となるであります。

さて卒業生諸君は、これから陸・海・空それぞれの幹部候補生学校において、初級幹部としての専門教育を受けるわけですが、諸君の幹部自衛官としての修業は、まさにこれからが本番であります。いうまでもなく、国家防衛の任は重く、その道は険しいのであります。のみならず、防衛の職務は、本来、縁の下の力持ちで地道なものであります。

また防衛問題や自衛隊に対する世間の理解や認識も、近年、著しく改善されつつあるとはいえ、必ずしも十分とは言えません。しかし、気力を充実させて逆風に耐え、困難に敢然と挑戦してこそそこに道が開かれ、苦しみに耐えてこそ人間に幅と深さが加わり、危機を乗り越える力が備わるものであります。

かつて、フランスのドゴール大統領が、サンシール陸軍士官学校の入校式で述べた言葉があります。

軍職は社会的評価の変動がとりわけ激しい職業である。戦争の時代には過度に尊重され、平和の時代になれば過度に軽視される。時代によって地位や評価が大きく上下する。それだけに士官たるべきものは、永い戦争に耐える勇気とともに、永い平和に耐える勇気が必要である。永い平和の中で静かに戦争に備え続ける忍耐が必要である。永い沈黙の勇気が大切である

それは、我々にとってもまことに教訓とすべきものであります。しっかりと心に留め、不断の努力に努めて下さい。

諸君が入校以来、しばしば耳にしてきたように、本校における教育目的の根幹をなすものは、「真の紳士淑女にして、真の武人」を育成することにあります。このことは、自衛官としての確固たる使命感を自覚し、防衛の専門分野での知識・技能・体力を修練すべきことはもちろん、一社会人として、幅広い教養と豊かな人間性を併せ持つべきことを意味します。防衛大学校の教育は、単に視野の狭い、特殊な戦争技術者の養成

を意図したものではなく、広く国家社会の一員として、その職責を全うし得る資質の涵養を目的としていることは論を待ちません。第1期生以来1万7千人を越える諸君の先輩達は、こうした防衛大学校における教育の成果を、一旦緩急に備えての日常の地道な勤務訓練の中で、更にPKO活動や様々な災害の救援活動等の中で見事に発揮してくれております。国民に信頼される、また国際社会に信頼される自衛隊の道を一步一步着実に築いてきてくれたといえましょう。

こうした先輩達の業績を受け継いで、これから諸君の活躍する21世紀の世界は、あらゆる意味で複雑化、多様化が進み、内外の情勢は益々不透明で予測し難くなることは必至です。そこでは、いかなる任務に就くにせよ、広い視野と高い視点に立った創造的で柔軟な思考力と的確な判断力、そして豊かな国際感覚が求められることとなります。

新しい防衛計画の大綱が成立し、これをふまえた中期防衛力整備計画の初年度がまさに始まろうとする大きな時代の節目に卒業を迎えた諸君に対し、幹部自衛官としての誇り高い任務を全うすべく、不断の研鑽と、気品に満ちた「一人間としての修業」を怠らぬよう強く望む次第であります。

本年の卒業式に当たり、特に申し上げべきことは、本校40有余年の歴史において、初めて女子の卒業生27名を送り出すことであります。諸君は、入校以来常に、女子学生1期生として注目され、それだけに苦労も多かったことと思いますが、それをファイト溢れるパイオニアスピリットで見事乗り越え、本日の栄えある卒業式を迎えました。私は諸君の今後の益々の精進と大きな成長を期待しています。

次に、理工学研究科75名の卒業生諸君 - この中にはタイ王国からの留学生1名が含まれていますが - 諸君に対し、一言申し述べます。諸君は、理工学に関する大学院レベルの専門的知識と技能を修得し、研究すべく2年の歳月を本校で過ごしました。この間、頭脳の充電を図り、将来への大きな飛躍の基盤を培う貴重な体験を積んだのであります。最近の科学技術の著しい進歩は、軍事面においても装備の高性能化、複雑化などの質的变化を生み、軍事戦略及び戦術に大きな変革をもたらしていることは周知の事実であります。今後諸君は、それぞれ新しい任務に就かれることとなりますが、広い視野に立って一層の研鑽に努められ、益々重要になりつつある自衛隊の科学技術分野における発展向上に尽力されるよう、切望するものであります。

さて、諸君の小原台生活の幕は、いままさに閉じられようとしており

ます。これから先、諸君のあとに続く後輩達の模範となるよう、いかなる部署、いかなる境涯にあっても、学生綱領の謳う「廉恥、真勇、礼節」を座右として育った防大出身者としての誇りを持って堂々と前進して下さい。そして、陸・海・空それぞれに進むべき道は分かれようとも、同期生同士その友情と団結を更に強め、お互い力を合わせて、祖国日本の輝かしい将来と国際社会の平和のために身を挺して行かれんことを、お別れに当たり心から祈念して私の式辞といたします。

諸君、卒業おめでとう。